

事業報告書

平成24年度

〔 自 平成24年 4月 1日
至 平成25年 3月31日 〕

一般財団法人 かき研究所

平成24年度事業報告

平成24年4月1日から平成25年3月31日までの事業年度における当研究所の事業状況を次の通り報告します。

I 社会貢献事業

1. 世界かき学会 (WOS) の運営 (公益目的支出計画 事業番号：継1)

(1) 第5回国際かきシンポジウム (IOS5) 開催に向けた準備

IOS5はIOS4会期中に開かれた運営委員会においてベトナムで開催することが決定し、平成23年11月森WOS会長はベトナム政府 Agriculture and Rural Development省を訪問、Dr. Thu 副大臣ほか関係者と具体的な協議を行った。

本年度に入りIOS5組織委員に選任されたオーストラリアのDr. Wayne O' Connor氏から、彼が事務局長を務める「世界水産養殖学会アジア・太平洋部会 (APC-WAS)」がベトナムホーチミンで開催予定のシンポジウムと合同で開催してはどうかとの提案があった。森会長は双方にメリットがあると判断し同意した。

開催について下記内容が決定している。

会期：平成25年12月10～13日の4日間のうちIOS5は2日間の日程で行われる。

会場：ホーチミン市 サイゴンエキシビジョン&コンベンションセンター

テーマ：「収益性向上を目指して」－健康・栄養・生産・遺伝・品質保証・ベトナムにおけるカキ産業の発展－

(2) WOS 組織強化の検討

8月森会長は、WOSに副会長職及び欧米・アジアなど地域支部長を設置する組織体制強化の方針を表明、事務局では具体化の検討を開始した。この背景にはWOS会員数が33か国500名を超えるまでになり、世界のかき生産国をほとんど網羅するに至った。また、会員からの「かき養殖技術や遺伝学等の多様な情報・知見を入手したい」「かき養殖の技術開発、向上を図りたい」「国際交流を確立したい」「貢献したい」等々の期待や要望が寄せられ、会員のネットワーク化や地域別事情に沿った活動が可能な組織体制の構築が急務となったことがあげられる。

会長から3地域支部及び支部長人事案をWOS運営委員に提案し議論を進めたところ、委員から積極的かつ発展的な意見が出され、最終的に5支部体制と支部長が委

員全員一致で承認された。今後 IOS5 の会期中に開催する運営委員会において具体的な取り組みの方向が検討され、WOS のさらなる発展を目指す。

5 支部及び支部長は下記の通り。

- ①アメリカ支部 (Aswani K. Volety 氏、フロリダ ガルフコースト大学教授)
- ②ヨーロッパ・アフリカ支部 (Rene Robert 氏、アルジェントン貝類孵化実験場長)
- ③アジア・オセアニア支部 (Tom Lewis 氏、オイスターズタスマニア 経営責任者)
- ④中国支部 (Qi Li 氏、中国海洋大学水産学院教授)
- ⑤日本支部 (渡辺 貢氏、株式会社渡辺オイスター研究所代表取締役社長)

(3) 世界かき学会ホームページ

WOS の課題のひとつである会員のネットワーク化への対応として WOS ホームページの活用を検討した。

具体的にはホームページ内に会員専用ページを設置し、掲載承諾を得た会員の名簿を公開することにした。2月8日会員認証システムの完成を待って運用開始し、430 名のリストが掲載された。今後会員間の交流が一層活発になることを期待している。

(4) IOS6 に向けた動き

5 月米国 NPO 法人「Will Oysters Save the Worrrd?」の代表 Kahren Dowcett 氏から WOS 入会申込みがあった。この法人の理念等は WOS のそれと全く同じであったが、後に WOS のビジョン・使命・目標を参考に作成したことが判明した。

この団体はカキを主題にした演劇を通じて使命・目標を具現化しようとするユニークな芸術活動、啓蒙活動を行っており、森会長は 7 月米国マサチューセッツ州ケープコッドでこの団体が上演する「Cirque de Sea」に招待され訪米した。

訪米中会長は Dowcett 氏と共にマサチューセッツ州議会議員 Sarah K. Peake 氏、Daniel A. Wolf 氏と面談、その席上で Dowcett 氏は 2 年後の IOS6 開催を現地のカキ祭りに合わせて開催したいという提案があり、両議員も賛同した。今後開催候補地の一つとして運営委員会に正式提案されることになる。

2. かき産業・食文化に係る地域フォーラムの開催

本年度は下記の通り複数の開催候補地に企画提案を行ったが、不調に終わり開催を断念することになった。

まず、先の東日本大震災前から計画を進めていた気仙沼市での開催は現地関係者の話では依然難しいとのことであった。候補地鳥羽市浦村についても三陸沿岸同様に津波被害から完全復旧してないことが鳥羽磯部漁協浦村支所長への提案段階で判明し、いずれも開催できないと判断した。

一方、広島県水産海洋技術センター長赤繁氏から京都府久美浜、九十九島などを開催候補地として推薦され、久美浜について現地の京丹後市海業水産課、京都府農林水産技術センター中津川海洋センター所長を介して現地との調整に入った。しかし、漁業者側から現地事情を理由に同意が得られず、残された年度内で準備期間が無いことから本年度開催は中止することになった。

その後、中津川所長の提案による候補地舞鶴市を次年度開催地として検討した。舞鶴市は豊富な水産物に恵まれているなかで、舞鶴産カキへの市民の関心は薄く、カキを生産していることさえ知らない人もいること、さらに、平成18年から京都府漁協や舞鶴観光協会などが「舞鶴かき井キャンペーン」を実施しPRに努めていることを把握した。市民への啓蒙やカキ養殖生産者への効果を考えるとフォーラム開催は有意義であると判断し、12月17日舞鶴市水産課及び京都府漁協舞鶴支所において企画提案し、開催方向で意見が一致した。今後関係者を加え具体的検討に入る。

3. カキに関する研究を行う若手研究者に対する研究助成

前年度同様にホームページに募集要領を掲載すると共に水産関係の学部・研究科を持つ全国の大学へ案内した。さらに日本水産学会・日本動物学会のホームページにも募集内容を掲載して頂いた。

11月30日に応募を締め切り、3件の応募について研究助成審査委員会にて審査の結果下記の2件を採択した。平成25年2月に該当者に通知し、ホームページ上に発表した。

①クロピンノの寄生によるケガキとオハグログキの性表現への影響

安岡法子 奈良女子大理学部生物学科4回生（大学院進学予定）

②マガキにおける体軸決定機構の解明

栗田喜久 九州大学大学院農学研究院附属水産実験所

公募期間中に助成対象の資格等の拡大について要望が寄せられ、審査委員会で検討の結果、資格条件を『40歳以下の大学院又はこれに準ずる研究機関に在籍する大学院生、ポスドク等研究者個人又はグループ』に拡大した。

今回の応募申請者から募集案内を当財団ホームページで知ったとの回答があったことから、今後ホームページのアクセスアップ策を検討する。

II 研究事業

1. ノロウイルスフリーカキの生産法確立および養殖カキ品質向上のための研究

海水中でのノロウイルスの存在様式については不明な点が多い。カキに取り込まれたノロウイルスは消化盲嚢に局在することから、カキの餌となるプランクトン等の微小な有機粒子に付着していると考えられるが、最近ではフリーの状態で見られるという報告もある。

本年度は、ノロウイルス代替中空粒子の試験供与を受けたので、これを用いてフリーの状態で見られるかを調べた。微小な有機粒子を完全に除去した試験海水を用意し、ノロウイルス代替中空粒子を懸濁した水槽でマガキを飼育した。ノロウイルス代替中空粒子がマガキ体内のどこに存在するかについては、組織標本作製して調べることにした。

その結果、外套膜と鰓にノロウイルス代替中空粒子の付着が認められたが、特異的なものは不明であった。飼育開始2日後、4日後の個体において、体内にノロウイルス代替中空粒子が検出できなかった。昨年度、プランクトンと共存させた実験区では取り込まれた代替粒子を確認したことを考え合わせると、従来からいわれているようにカキの餌と一緒に取り込まれる可能性の方が高いと考えられた。

2. カキなど二枚貝の特性を生かした環境評価法に関する研究

昨年度、有力なバイオマーカーの候補として外套膜および体表粘液に存在するキチナーゼを見いだしたので、本年度はキチナーゼの特性についてより詳細な検討を行った。

その結果、マガキのキチナーゼには3種類のアイソタイプがあるが、外套膜のキチナーゼは1種類であることが確認できた。また、季節、水温、そしてpHの違いによる活性の変動は小さく安定であった。活性の個体差も小さかった。すなわち、キチナーゼは安定した酵素であり、健全個体における標準値を定めることができる分子であると考えられる。逆に微妙な変化に対し、鋭敏な反応を示す分子ではないと思われるので、環境の大きな変化、あるいは中長期的な変化の指標としては有用であると評価できた。

Ⅲ 財団運営・庶務事項

1. 会議の開催

(1) 理事会・評議員会

- ・ 第6回理事会(平成24年5月25日) 定款第40条に基づく決議の省略
提案事項：①平成23年度事業報告及び計算書類の件、②公益目的支出計画実施報告書の件、③第3回定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項の件
- ・ 第7回理事会(平成24年6月22日) 定款第40条に基づく決議の省略
提案事項：①代表理事及び業務執行理事の選任の件
- ・ 第8回理事会(平成25年3月19日) 定款第40条に基づく決議の省略
提案事項：①平成25年度事業計画及び収支予算の件
- ・ 第3回定時評議員会(平成24年6月14日) 定款第40条に基づく決議の省略
提案事項：①平成23年度事業報告及び計算書類の件、②理事及び監事の任期満了に伴う選任の件、③評議員選任の件

(2) 運営会議

- ・ 平成24年6月28日
①評議員会・理事会開催及び役員の件、②第5回国際かきシンポジウム開催の件、③平成24年度かきフォーラム開催の件、④NPO法人海の会との共同研究の件
- ・ 平成24年9月7日
①森理事長訪米報告の件、②世界かき学会組織体制強化の件、③渡辺オイスター研究所社員研修の件、④平成24年度かきフォーラム開催の件
- ・ 平成24年10月3日
①平成24年度中間決算内容の件、②平成25年度かきフォーラム開催候補地の件、③研究事業進捗状況の件

- ・平成24年11月28日
 - ①世界かき学会組織体制強化の件、②平成25年度研究助成の件、③世界かき学会ホームページ「会員専用ページ」開発の件、④次年度研究事業の件

- ・平成24年12月19日
 - ①世界かき学会組織体制強化の件、②平成25年度研究助成審査及び平成26年度募集要項の件

- ・平成25年3月4日
 - ①平成25年度事業計画及び収支予算の件、②第8回理事会開催の件

2. その他特記事項

平成24年4月27日	平成23年度事業内容について鈴木監事に監査を受ける。
平成24年5月17日	日本オイスター協会小比賀会長が来所、協会の活動内容について説明を受け、今後双方が協力し合うことで合意した。
平成24年5月23日	森理事長が東京にてNPO法人海の会齋藤事務局長と共にベトナムドンズー日本語学校長グエンドックホーエ氏と懇談した。
平成24年6月7日	内閣府へ公益目的支出計画実施報告書を提出した。
平成24年6月19日	仙台北税務署、宮城県、仙台市、気仙沼市へ法人税確定申告書を提出した。
平成24年6月26日	保存文書の劣化対策のため電子化作業を開始した。
平成24年7月5日	登記事項の一部(定款第32条)が未済と判明し更正登記した。
平成24年7月27日～	森理事長訪米、8月5日帰国（本報告書2頁参照）
平成24年10月26日	保存文書の第1次電子化作業が終了した。
平成24年11月20日	WOSホームページに会員専用ページの設置を計画、業者と検討に入った。
平成24年12月7日	森理事長はマレーシアトレンガヌ大学からの要請を受け、5月13日に大学内研究所にて講演を行う。演題は「コスモポリタンガキとなったマガキ養殖の現状と展望」を予定。
平成24年12月17日	大中総務部長は舞鶴市役所及び舞鶴漁協を訪問、かきフォーラム開催企画を説明した。（本報告書2-3頁参照）
平成24年12月10日	NPO法人海の会齋藤事務局長が来所。高橋研究所長から超音波応用に関する予備実験の報告と今後の進め方について検討した。

	森理事長・大中総務部長はJST復興大学・(株)イーノス等関係者の会合に出席し技術情報を交換した。
平成25年1月18日	WOS会員専用ページの運用を開始した。
平成25年1月29日	日仏共同によるカキのTV番組制作のためフランスTVプロデューサー、仙台放送局関係者が取材に来所、森理事長から三陸のかき養殖等について説明を受けた。
平成25年2月15日	かき研究所ニュース第28号を発行した。
平成25年2月22日	届出等のオンライン化のため電子証明書取得の準備を行った。
平成25年2月25日	渡辺オイスター研究所渡辺社長が来所、研究情報の交換等を行った。
平成25年3月9日	NPO法人海の会齋藤事務局長、堀江理事、安田監事、超音波技術研究者の河西氏が来仙。東北大学にて高橋所長、大中総務部長が出席し、超音波応用研究に関する次年度の計画を検討した。
平成25年3月21日	オーストラリア大使館・総領事館の宮園、吉本両主席商務官が来所、三陸かき養殖生産者への支援について懇談した。
平成25年3月22日	森理事長、大中総務部長は宮園、吉本両氏を宮城漁業協同組合本所に案内、船渡専務ほか漁協幹部及び高橋かき部会長とかき養殖の諸問題、支援事業について意見交換した。石巻湾支所も訪問し幹部と懇談の後、かき処理場等施設を見学した。